

110th JSPN 2014/06/27, Yokohama, JPN

自殺しない誓約は有効か？

Is no harm or suicide contract valid?

齊尾 武郎

フジ虎ノ門健康増進センター

K&S産業精神保健コンサルティング

saio@ppp.bekkoame.ne.jp



日本精神神経学会 利益相反(COI)開示 筆頭発表者名: 齊尾 武郎

**演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。**

【倫理的配慮】 本発表は学術研究として公表された文献を用いたレビューであり、個人を特定可能な情報を含まない。

うつ病の小精神療法に関する「笠原の 7 カ条」

1. うつ病は病気であり、単に怠けではないことを認識してもらう
2. できる限り休養をとることが必要
3. 抗うつ薬を十分量、十分な期間投与し、欠かさず服用するよう指導する
4. 治療にはおよそ3ヶ月かかることを告げる
5. 一進一退があることを納得してもらう
6. **自殺しないように誓約してもらう**
7. 治療が終了するまで重大な決定は延期する

笠原嘉. うつ病(病相期)の小精神療法. 季刊精神療法 1978; 5: 118-24.

自殺しない誓約: no suicide contract(NSC)

- 一般には初出は、Robert C. Dryeらとされる
 - Drye RC, Goulding RL, Goulding ME. No-suicide decisions: patient monitoring of suicidal risk. *Am J Psychiatry*. 1973;**130**:171-4.
- しかし、M. David Ruddら(*J Clin Psychol*,2006)によれば、すでにJack R. Ewaltが自殺をしない誓約と同様のアプローチを記載しているという。
 - Ewalt JR. (1967). Other psychiatric emergencies. In Freeman AM, Kaplan HI,eds. *Comprehensive textbook of psychiatry*. Baltimore: Williams & Wilkins; 1967: 1179-87.

自殺しない誓約：文献検索

キーワード：“no suicide contract”(NSC), “no harm contract”(NHC), “suicide prevention contract”(SPC), life-maintenance agreement(LMA), commitment for safety(CFS)

- PubMed=NSC:16(9), NHC:0, SPC: 4(3), LMA:0, CFS:0
- Google scholar=NSC: 447(28), NHC: 249(20),SPC:138(26), LMA:1(1),CFS:52(2)
- Cochrane Library(all)=NSC:0, NHC:0, SPC:0, LMA:0, CFS:0
- ProQuest=NSC: 79(21), NHC:41(8),SPC:30(8), LMA:0, CFS:9(0)

重複を除くと、レビュー27、実証研究5、その他5であった。

自殺しない誓約：結果①

- NSC/NHCが自殺既遂率の減少に有効であることを実証する疫学的データは存在しなかった。
 - また、入手可能な11件のレビュー論文すべてが、**NSC/NHCに自殺予防に有効であるという実証的エビデンスがない**ことを指摘している。
- 今回の文献検索では、NSC/NHCの効果に関する実証研究が5報ヒットしたが、レビュー論文によると、**その他**に以下の4報がある。
 - Charles W. Hennig CW, Crabtree CR, Baum D. Mental health CPR: Peer contracting as a response to potential suicide in adolescents. *Archives of Suicide Research*. 1998; **4**(2): 169-87.
 - Jones RN, O'Brien P. Unique interventions for child inpatient psychiatry. *J Psychosoc Nurs Ment Health Serv*. 1990; **28**(7):29-31.
 - Jones RN, O'Brien P, McMahon WM. Contracting to lower precaution status for child psychiatric inpatients. *J Psychosoc Nurs Ment Health Serv*. 1993; **31**(1):6-10.
 - Busch KA, Clark DC, Fawcett J, Kravitz HM. Clinical features of inpatient suicide. *Psychiatric Annals*. 1993; **23**(5):256-62.

自殺しない誓約：結果②

- NSC, NHCの有効性に関する実証研究は、ほとんどない。
 - Kroll J. Use of no-suicide contracts by psychiatrists in Minnesota. *Am J Psychiatry*. 2000;157(10):1684-6.
 - Davis SE, Williams IS, Hays LW. Psychiatric inpatients' perceptions of written no-suicide agreements: an exploratory study. *Suicide Life Threat Behav*. 2002;32(1):51-66.
 - Farrow TL, Simpson AIF, Warren HB. The effects of the use of "no-suicide contracts" in community crisis situations: the experience of clinicians and consumers. *Brief Treatment and Crisis Intervention* 2002; 2:241-6.
 - Drew BL. Self-harm behavior and no-suicide contracting in psychiatric inpatient settings. *Arch Psychiatr Nurs*.2001;15(3):99-106.
 - Buelow G, Range LM. No-suicide contracts among college students. *Death Stud*. 2001;25(7):583-92.

以下、今回の文献検索でヒットした文献に◎、レビュー論文中のNSCの有効性に関する参考文献に●をつける。

Jerome Knollの研究◎

- Kroll J. Use of no-suicide contracts by psychiatrists in Minnesota. *Am J Psychiatry*. 2000;**157**(10):1684-6. (**全文**)
- ミネソタ州の514名の精神科医に質問紙を郵送(267名:52%が回答)。152名(57%)がNSCを使用、うち62名(41%-全回答者の23%)がNSC後の患者の自殺既遂もしくは激しい自傷行為を行っていた。
- **精神科歴の長い医師ほど、NSCを用いない傾向にあった。**

Steven E. Davisらの研究◎

- Davis SE, Williams IS, Hays LW. Psychiatric inpatients' perceptions of written no-suicide agreements: an exploratory study. *Suicide Life Threat Behav.* 2002;**32**(1):51-66. (**全文**)
- 自殺の危険性が高くて入院した135名の患者に対する Commitment to Safety Surveyという調査。対照群として133名の入院患者。
- ほとんどがNSCを良いことと受け止めていたが、**自殺企図の回数が多い患者は、NSCは無意味**だと考えていた。

Tony L. Farrowらの研究◎

- Farrow TL, Simpson AIF, Warren HB. The effects of the use of “no-suicide contracts” in community crisis situations: the experience of clinicians and consumers. *Brief Treatment and Crisis Intervention* 2002; 2:241-6.([全文](#))
- ニュージーランドの8人の患者、9人の看護師に対する面接調査。
- NSCはむしろ有害ではないかという意見が出た。

Barbara L. Drewの研究◎

- Drew BL. Self-harm behavior and no-suicide contracting in psychiatric inpatient settings. *Arch Psychiatr Nurs*.2001;**15**(3):99-106. (**サマリーのみ**)
- カルテを用いた後ろ向き研究。
- 31名(4.8%)が自傷行為し、うち半数が自殺目的であった。
- NSC(**オッズ比7.43**)、身体拘束(オッズ比2.47)が**自傷行為と正の相関**があった。

自殺しない誓約をした人のほうが、きわめて自傷行為しやすい!!

George Buelowらの研究◎

- Buelow G, Range LM. No-suicide contracts among college students. *Death Stud.* 2001;**25**(7):583-92. (サマリーのみ)
- 112名の大学生全員に3種類の自殺をしない誓約を勧める文書を読ませ、自殺しない気持ちになるかどうかを調査。
- 3種類のうち、一番長く詳しい誓約が一番良いという結果となった。

Charles W. Hennigらの研究●

- Charles W. Hennig CW, Crabtree CR, Baum D. Mental health CPR: Peer contracting as a response to potential suicide in adolescents. *Archives of Suicide Research*. 1998; 4(2): 169-87. (サマリーのみ)
- ハイスクールの生徒、約400名に対するオープン比較対象試験。
- 半数にNSCを行ったところ、対照群に比べ、自殺の考えが少なく、自殺に結びつく症状への気づきや援助探索行動が多かった。

Robert N. Jonesらの研究2報●

- Jones RN, O'Brien P. Unique interventions for child inpatient psychiatry. *J Psychosoc Nurs Ment Health Serv.* 1990;**28**(7):29-31.
 - サマリーも全文も入手できず。
- Jones RN, O'Brien P, McMahon WM. Contracting to lower precaution status for child psychiatric inpatients. *J Psychosoc Nurs Ment Health Serv.* 1993;**31**(1):6-10. (サマリーのみ)
 - サマリーでは、NSCに関連した記載なし。



Katie A. Buschらの研究●

- Busch KA, Clark DC, Fawcett J, Kravitz HM. Clinical features of inpatient suicide. *Psychiatric Annals*. 1993; **23**(5):256-62. (サマリーのみ)
- サマリーには、NSCに関連した記載なし。

まとめ(1)

- NSC/NHCの有効性に関して、計9報の実証研究があるが、入手できたのは3報、サマリーのみ閲覧できたものが5報、詳細が不明なものが1報であった。
- Jerome Knollの精神科医に対する質問紙調査、Barbara Drewによるカルテを用いた後ろ向き研究からは、**NSC/NHCはむしろ、有害**である可能性がある。

レビュー論文での議論①

- 27件のレビュー論文を抽出し、うち11件を入手した。
- いずれもNSC/NHCには、有効であるというエビデンスがないとしている。
- NSC/NHCは治療者・患者間の良好な治療同盟の構築に有用であるとする考え方もあるが、実際には、治療者と患者関係が良好である場合にこそ、有用な技法である。
- NSC/NHCにより、患者の自己効力感が増す、自分の命に責任を持つ、という利点も考えられる。
- 衝動的な自殺をNSC/NHCは、“一時的に”思いとどめさせる効果はあると思われる。

レビュー論文での議論②

- 自殺の意志の固い患者では、治療者に自殺の意志の固さを隠す傾向にあり、治療者に本意を隠すために故意にNSC/NHCを結ぶことがあり、NSC/NHCが有効ではない。
- 自殺の意志の弱い患者では、NSC/NHCは**未熟な治療者の過剰な憂慮、あるいは治療責任の放棄、ルーチンワークと受け止められかねず、注意が必要である。**
- かつてNSC/NHCを結べば、治療者は患者の自殺に関して免責されるという考え方があったが、現在では、治療者は自ら患者の自殺リスクを評価して対策を取るべきであり、**NSC/NHCでは治療者は免責されない**と解されている。

レビュー論文での議論③

- NSC/NHCを結んだ時点で**患者の意思能力が低下**していれば、NSC/NHC自身が無効である。
- NSC/NHCを**患者の意思を無視した強制**だと受け止める患者もいる。
- NSC/NHCを守れるかどうか自信がないのに誓約してしまったことに嫌悪感・罪悪感を持ち、治療が中断したり、**本心を語るのをやめてしまう**ケースがある。
- NSC/NHCをした以上、それ以上、自殺に関する話を治療者にしてはいけないものだと、患者が思い込んでしまうことがある。

レビュー論文での議論④

- NSC/NHCを拒否する患者は自殺のリスクが高く、また、治療同盟が弱いので、入院監視下に置くべきだという考えもあるが、治療同盟が弱いのに強制治療をすることは、かえって反治療的であるという考えもある。
- 統合失調症、アルコール依存症、境界性パーソナリティ障害では、それぞれの精神病理的な特徴により、NSC/NHCは有効ではない。

レビュー論文での議論⑤

- NSC/NHCを結ぶのではなく、治療者・患者双方が“**治療に積極的に参加しますという言明**”(commitment-to-treat statement: CTS)をしたり、自殺のリスク評価や対応方法を患者と話し合うこと(safety planもしくはcrisis plan)が有用であるとされている。
- 治療者がNSC/NHCを結ぶことに注力するあまり、他の側面に対する配慮が足りなくなる。

参考にしたレビュー論文一覧①

- Garvey KA, Penn JV, Campbell AL, Esposito-Smythers C, Spirito A. Contracting for safety with patients: clinical practice and forensic implications. *J Am Acad Psychiatry Law*. 2009;**37**(3):363-70.
- Simon RI. The suicide prevention contract: clinical, legal, and risk management issues. *J Am Acad Psychiatry Law*. 1999;**27**(3):445-50.
- Lee JB, Bartlett ML. Suicide prevention: critical elements for managing suicidal clients and counselor liability without the use of a no-suicide contract. *Death Stud*. 2005;**29**(9):847-65.
- Rudd MD, Mandrusiak M, Joiner Jr TE. The case against no-suicide contracts: the commitment to treatment statement as a practice alternative. *J Clin Psychol*. 2006;**62**(2):243-51.

参考にしたレビュー論文一覧②

- Lewis LM. No-harm contracts: a review of what we know. *Suicide Life Threat Behav.* 2007;**37**(1):50-7.
- Potter ML, Dawson AM. From safety contract to safety agreement. *Journal of Psychosocial Nursing & Mental Health Services.* 2001;**39**(8): 38-45.
- Weiss A. The no-suicide contract: possibilities and pitfalls. *Am J Psychother.* 2001;**55**(3):414-9.
- Kroll J. No-Suicide Contracts as a Suicide Prevention Strategy. *Psychiatric Times.* 2007;**24**(8): 60.
- Range LM, Campbell C, Kovac SH, Marion-Jones M, Aldridge H, Kogos S, Crump Y. No-suicide contracts: an overview and recommendations. *Death Stud.* 2002;**26**(1):51-74.

まとめ(2)

レビュー論文によると、

- NSC/NHCには、**有効であるというエビデンスがない**。
- NSC/NHCを結んでも、患者の真意でなかったり、かえって**治療同盟を損なってしまう**ことがある。
- 治療者は自ら患者の自殺リスクを評価して対策を取るべきであり、NSC/NHCでは**治療者は免責されない**。
- NSC/NHCを結ぶのではなく、治療者・患者双方が“治療に積極的に参加しますという言明)をしたり、自殺のリスク評価や対応方法を患者と話し合うことが有用である。

その他①

- 本発表で用いたデータベースには、心理学分野中心の PsycInfo や看護文献中心の CINAHAL が含まれておらず、網羅性は担保されない。
 - その分、レビュー論文の記載を読むことで、補っている。
- “自殺しない誓約“に関する和文論文は、google scholar で “no suicide contract” をキーワードにして 2 報ヒットし、文献レビューと症例集積研究であり、**いずれも NSC を推奨**するものであった。
 - 松本俊彦. わが国の自殺の現状と自殺予防に期待する薬剤師の役割. 薬学雑誌 2013; 133(6): 599-615.
 - 辻裕美子, 木村武彦, 桑野譲, 赤松達也, 斎藤裕, 吾郷晋浩, 矢内原巧, 国谷誠朗. 更年期女性の自殺念慮への介入. 日本女性心身医学会雑誌 1999; 4(1): 57-61.

その他②

- google scholarで”自殺をしない誓約”をキーワードにしてゼロ件、”自殺をしない約束”をキーワードにして1報ヒットした。これは精神科医師に対する質問票による調査であり、**NSCを肯定する**結果であった。
 - 川島大輔, 小山達也, 川野健治, 伊藤弘人. 希死念慮者へのメッセージにみる、自殺予防に対する医師の説明モデル—テキストマイニングによる分析. パーソナリティ研究 2009; 17(2): 121-32.
- 医学中央雑誌では、”自殺しない約束”で、2報ヒットし、うち1報は上述の川島論文、もう1報は下記の症例報告であり、**NSCを推奨**するものであった。
 - 花岡啓子. 「自殺しない契約」の有用性-ワーカホリックの症例から. 交流分析研究 2003; 28(1): 53-8.
 - “自殺しない誓約”、“no suicide contract”はいずれもゼロ件であった。

さいごに

- 英文論文では、NSCを**否定**する見解が優勢であるのに対し、我が国では、NSCを**推奨**する傾向にあった。
- NSCの有効性に関する現今の実証研究からは、NSCは**有害**であり、**行うべきではない**と考えられる。
- わが国ではNSCは、うつ病の小精神療法に関する「笠原の7か条」として、長い間、うつ病患者に対する基本的診療姿勢とされてきた。しかし、こうした**格言/クリニカルパール**についても、**実証的にその正否を確認する必要がある**。